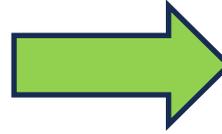


## 【取組内容⑤】 実践内容を地域内外に普及するための具体的な取り組み

## ICTの効果的活用の実践⑧

以下の4つの取り組み事例を市内の教員に報告した。また、児童を交えてのパネルディスカッションを行い、ICTを使つての授業のやりがい、困り感など生の声を届けた。

## 児童の声



- ジャムボードに意見や考えをたくさん出せる。
- 自分の考えを共有したり、他者参照することで学びが深まる。
- 自分で課題を決め、調べ、まとめることができるので自分のペースで学習ができる。

## ○「個別最適な学びの実践事例」

白紙共有や他者参照を行い、考えを深めたり、振り返りに意欲的に取り組めるようになった。また、授業のまとめや振り返りなど、スプレッドシートを活用することで、場所を問わず確認することができた。また、ラーニングガイドでは、めあて、学習内容、学習評価、学習過程、学習方法、資料添付などをし、クラスルームや電子黒板に示し、具体的な取り組みかたを示すことで、「見通しを持たせてあげる」ことが可能となっている。ラーニングガイドを提示することで子供たちは自分なりの学習評価＝ゴールを設定し、自主的に学習していくことができたと感じる。

## ○「ペーパーレス化」

リーディングDXスクール事業実践前は、職員会議資料や校内研修資料は、紙媒体で綴っていた。提案資料回収に時間がかかったり、紙なので印刷したり、まとめるために相当の時間を要した。事業実践後は、「ペーパーレス化」を図っている。会議や研修に係る紙媒体の印刷・製本がなくなり、それに係る作業時間の削減が可能となった。

## ○「チャットの活用」

DX実践前は、会議資料及び研修資料等の「共有資料」は、「校務支援システム」や「NAS」を通してのデータの保存であったり、データの送受信であったり、さらには紙媒体による共有方法であった。DX実践後は、アドバイザーの助言もあり「チャット」活用を開始し、現在では、データの送受信や諸連絡等もチャットで行い、情報共有の一元化が図られつつある。また、授業実践の共有や教材研究等の学び合いも可能にしている。

## ○「校内研修のICT活用」

ペーパーレス化は基より、授業研究会においては、教員個々がノートPC（タブレットPC）を持参し研究協議している。その中で、「ジャムボード」の「付箋機能」を使用し、グループ協議（ワークショップ型）を行っている。教員個々の意見がその付箋に反映されること、そして全体協議の情報共有の場面でも電子黒板に投影された資料が共有されること、さらには、データ保存により、必要に応じて振り返りもできる良い点が生まれている。